

授業科目 臨床生理学 I

【担当教員名】 生駒 俊和	対象学年	3	対象学科	臨床	
	開講時期	前期	必修選択	必修	
	単位数	2	時間数	30	
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○				
【概要・一般目標：G10】 生体の循環器系の生理機能変化の記録法と生理機能評価法に関する知識を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 生理学的検査の目的を説明する。 2. 心筋の生理学的特徴を説明する。 3. 誘導法について説明する。 4. 心電図の発生機序と正常心電図を説明する。 5. 不整脈、心臓肥大、虚血性心疾患の心電図を説明する。 6. 負荷心電図の種類と禁忌の疾患を説明する。 7. 心電図・心音図と脈波の関係を説明する。 8. 異常心音と異常脈波を説明する。 9. 正常心臓超音波像を説明する。 10. 異常心臓超音波像を説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	臨床生理学総論 検査目的と業務範囲、注意事項、患者の心理と対応			1	講義
2	心電図の基礎 心筋細胞の電気現象、心臓電気現象と心電図の関係			2	講義
3	心電図の誘導法 双極誘導、単極誘導			3	講義
4	心電図1 正常心電図、正常波形			4	講義
5	心電図2 正常心電図、正常洞調律の条件			4,5	講義
6	心電図3 異常心電図、心室肥大			5	講義
7	心電図4 異常心電図、虚血性変化			5	講義
8	心電図5 異常心電図、不整脈			5	講義
9	心電図6 異常心電図、不整脈、ホルター心電図、負荷心電図			5,6	講義
10	心音図 心音図と心周期、心音、心雑音			7,8	講義
11	心機図 頸動脈波、頸静脈波、心尖拍動図			7,8	講義
12	心臓超音波検査1 超音波検査の基礎			9	講義
13	心臓超音波検査2 正常画像			9	講義
14	心臓超音波検査3 心機能評価			10	講義
15	心臓超音波検査4 異常画像			10	講義
【使用図書】	<書名> <著者名> <発行所> <発行年・価格 他>				
教科書 (必ず購入する書籍)	臨床検査学講座 生理機能検査学 第3版 大久保 善朗 他 医歯薬出版 2010・6,930円・2010年3月				
参考書	臨床工学講座 生体計測装置学 石原 謙 医歯薬出版 2010・4,830円・2010年3月				
その他の資料	配布資料				
【評価方法】 講義中に実施する小試験(30%)小試験は追試験、再試験の評価にも適用する。講義欠席の場合は小試験は0点とする。定期試験(70%)。定期試験後の再試験は小試験で50%未満の場合は再試験の対象者から除外します	【履修上の留意点】 生理学の内容を理解して受講のこと。略語や専門用語が沢山でてきます。とまどうかも知れませんが根気よく努力をして、知識を確実にして行って下さい。各種検査の判読の流れを理解すること。不明な点は必ずその場で解決すること。				